

松江キャンパス ニュース

The University of
Shimane
Junior College

vol. **2**
2009.4.1

鳥取県立大学短期大学部松江キャンパス広報

地域にあって
輝く大学を目指して

地域交流

「観光立国」の序で
松江の街が果実を

公開講座

キャンパスに直前で
秋祭りを

行事その他

国際交流を

授業紹介

秋祭りを

TOPICS

新学長あいらつ

副学長
高橋 憲二

鳥根県立大学短期大学部の 現状と将来について

法人化2年目を迎えた松江キャンパスは、3年前(総合文化学科学術研究室、学生教室などの入った棟)の老朽化に対応する、設備工事(主に壁紙の吹きつけと床の修繕)に開始した。教職員が揃って働けるアカデミックな環境を、学生が安心して勉学に励むことのできる教育環境を築くことができるよう、これからも計画性をもって取り組んでいきたい。

推薦入試の合格発表を先日終えた。健康栄養学科や保育学科は例年とかわらないが、総合文化学科では前年に対し、受験者数が1.5倍増え、特に県内高校出身者の増加が目立った。地域ニーズを捉え短期大学としての役割が一層強まらせていると実感する。

就職活動は、これから夏大としての本番時期に入る。今年は1月に保護者懇談会を開催する。これまでは学科単位で自主的に開催していたが、今年度からはキャリアセンターの協力で全学的に組織的に取り組むこととなった。新しい就職体制を迎え、この役割を保護者と共に果たしていきたいと思う。

法人化することによって改善されることと期待されることは、大学の管理運営の効率化と迅速化、予算の重点配分、教育の教育力のレベルアップと適正な評価、学費のリーダーシップの発揮などである。今後、教職員全員で、法人化の利点を活かされる大学とされるよう努力を重ねたい。

はじめまして！

Matsue Campus Topics

総合文化学科 講師
ラング クリス

私は、2009年4月に着任しました。総合文化学科英語文化系のラング・クリスです。出身はアメリカの合衆国ミズーリ州です。2001年の来日以來、英語教育に関わる仕事を続けています。専門はTESOL(英語を第二言語とする人のための英語教育)とCALL(コンピュータを使用した外国語学習)です。大学院ではTESOLを専攻し、中でも口語に特化しているのは、録音やコンピュータを用いた言語習得法の研究です。これからも、ますますTESOLとCALL分野の研究や教授法を深めていきたいと思っています。

最初は、キャンピング、読書、キャンプです。特に最近では、陶芸にはまっており、抹茶茶碗などを作っています。

まだ本学での生活でわからないことも多いですが、一日一日を大切に頑張りたいと思っています。これからも、専門分野における研究と教育、地域貢献に積極的に取り組んでいきたいです。

法人職員さんの紹介

Matsue Campus Topics



多久 安夫さん

法人化して2年目、すでに法人の職員さんにも活躍なさっています。そこで、ここでは二人の法人職員さんを紹介いたします。多久安夫さんと舟本華代さんです。多久さんは、施設管理課として学内の施設の管理や講習会の企画実施、細かいところでは、研究費の精算の帳簿整備まで、どのような事にも対応して下さるとも頼もしい方です。そんな多久さんは、趣味で家庭菜園をなさっており、観音竹のジャンボカボチャなども作っていらっしゃいます。今回、そのジャンボカボチャ(直径18kg、周長120cm)を「児童文学劇場」に提供していただきました。もちろん仕事の面では頼りにしておりますが、また今年もどんな新しいものを見つけていただけるのか、楽しみです。



舟本 華代さん

舟本さんは、教務学生課で入試関連の仕事や、学生の様々な悩みを見てくださっています。ちなみに、学生が事務室にノートパソコンを運びに行ったとき、舟本さんが貸出を対応してくださったようで、学生が「私たちと同じくらいの人がいるってすごかったよ」と言っていました。…？

普段は、カウンターから離れた所で事務仕事に専念していらっしゃるため、直接お話をする機会が多くなりませんが、様々な資料などをまとめて、嬉しいグッズなどもチャイプチャイで作ってしまったりなど、こちらも頼れる職員さんです。

「観光まちづくり学」で松浦市長が講演

2009年10月16日に「松江のまちづくりと観光施策」というテーマで松江市長が講演をなさいました。この講演は、「観光まちづくり学」という本学の総合文化学科の授業の一環として行われました。参加者は100名を超す大盛況。松浦市長は、最初約50分とおっしゃっていた講演を、松江のさまざまな施策を観光という視点で熱心にお話になり、時間ぎりぎりの約90分に達する講演をなさいました。観光は産野の広い産業であること、松江が取り組んでいる観光への工夫やセミナーなどについてお話しくださいました。また、松江のお菓子をお持ちくださるようなサービスも。

学生たちも、行前のトップから様々な松江市の施策について話が聞けたことは、よい経験になったのではないのでしょうか。地元 학생も県外からの学生も松江の魅力を発見・再発見した様子が見えたらうかがえました。



茶道部の地域交流

私たち茶道部は2008年春に行われた、松江開府400年祭の場上市会と武者行列一軒の縁に参加させて頂きました。今回私たちは、松江の伝統文化であるお茶でおもてなしました。これらの経験から学んだことは「相手を知り、自分の優美を尽くすことは、相手の心を癒すだけでなく、自分自身の心も癒すこと」ということです。重要な役割を任せ頂いたことに感謝し、感謝一人ひとりが丁寧かつ心をこめて取り組みました。そうした中で、お客様から「ありがとう」や「こそそうさま」という言葉を頂いたことは、私たちにとってこの上ない喜びとなりました。地域に溶け込むこととして、松江の歴史や文化を発信する立場となったことに誇りを感じていると共に、たくさんの方々とは出会えたことで成長できたのではないかと考えています。

総合学科2年 西村美咲
総合文化学科2年 小林 彩
総合文化学科1年 中重 彩



読み聞かせ

私たちはおなしびごは、おなしレストランという名のもと、地域での読み聞かせ活動を行っています。2008年からは、これまで活動してきた乃木小学校に加えて、島根県立美郷館と「船本ワールドinまね」からも有難いお話を頂き、貴重な活動の場を得ることが出来ました。

島根県立美郷館では、併設開館されたエリック・カール館でのイベントとして「おなしのへや」を開催し、エリック・カール絵本の読み聞かせを行いました。手遊びを約50分のセッションで、1日に3〜4回、5日間で計18回行いました。毎回、多くの子どもたちとその保護者、友人に来て頂き、来賓数は計1197人にも上りました。アンケートからは、子どもたちだけでなく、大人の方々にも、読み聞かせの楽しさや興味らしさを体感して頂けたことが何れ、とても嬉しくなりました。



また、2008年2月8日に松江イングリッシュガーデンで行われた「船本ワールドinまね」では、2回のセッションを行いました。今回は、長瀬太史さん、ジョン・バーニンガムさんの作品を取り上げ、30分のセッションを考えました。各回20人前後のお客様がセッション。私たち世代がはなしびごの最後の活動を、共に楽しんで頂きました。

おなしびごで行ったこれらの活動が、今後読み聞かせを行う後輩へと繋がり、また地域での活動の場が更に広がることを願っています。



公開講座

公開講座

「キャンパス図書館で読書会を」

***** 河原 悟一

講演や講座を聞くというより、少人数で参加して、積極的に意見を交差して頂くという趣旨で始めました。図書館司書の飯島久美子さん、北井由香さん、田中朝美さんにも、交替で参加して頂きました。グループ質疑で、気楽な感じで、時には活発な議論を交わらせて。

第1回はユダヤ人女性のローゼ・アクスレンダーの自伝「時の音楽」読者社から推薦本の評を依頼して、感しみを温えながら、晩年の生き生きに見つめる美しい予備を拝見しました。

第2回は、遠江太郎「総論」文藝文庫所収の戦後からの短編小説をもとに、時代の書物観と人生の軌跡について、意見を交わしました。

第3回は、奥野まいこ「幸福な食卓」読者社文庫を取り上げ、東京のあの方の家庭について、ディスカッションしました。

第4回は、井上梅「水鏡」新潮文庫を取り上げ、「男性はロマンチストで自分で物語を作る」などの貴重なご意見を頂きました。

第5回は、小林多喜二「蟹工船」新潮文庫を取り上げ、戦時にも通じる労働の問題などについて話し合いました。

第6回は、城山三郎「落日静け」新潮文庫を取り上げ、東京裁判から聞かれる昭和史の裏面をめぐって、意見を交わしました。



「快適な人生(QOL)を目指して—実践編—」

健康栄養学科 准教授 名和田 清子

国民健康・栄養調査の結果では、太りすぎの人と若い女性のやせの人の増加が問題になっていました。「いつでも、どこでも、なんでも食べられる」豊食の時代となった今、食べることや健康について振り返り、考える機会が少なくなってしまった結果といえます。今年度、健康栄養学科では、健康な生活・食生活の実践を目指して、「快適な人生(QOL)を目指して—実践編—」という公開講座を開講しました。この講座は、「快適な人生(QOL)を目指して」(講義編)の参加者を対象に、知識を実践に導くことを目的に開設したものです。この講座では、身体計測や骨密度測定、消費エネルギー量(安静時代当量)の測定や食事調査、生活状況調査などを行い、自分の健康状態や生活状況を振り返り、健康な生活を送るための課題について考え、改善のための計画を作成し、実践してみようというものです。全3回の講座で、第1回目に計画を作成し、第2回目に実践状況の確認、反省、計画の修正を行い、第3回目には、継続のためのディスカッションを行いました。参加者の方から「忙しい生活を送る中で、改めて、自分の生活を振り返ることができ、考えさせられることが多かった。」との感想をいただきました。この講座は、測定や調査を必要とするため、定員を定めるという少人数に限らせていただきましたが、少人数であったため、参加者の方々の仲間意識が芽生え、話し合い、みんなで、楽しみながら進んでまいりました。この講座は今年度も継続して開設したいと考えています。忙しい中、自分の健康について考える機会が少なくなりがちですが、参加していただき、健康のために、できること、したいことを探し出していただければと考えています。

2007年9月から2008年の3月にかけて、交換教授としてアメリカのセントラル・ワシントン大学(ワシントン)に行ってきました。9月から12月の秋学期は日本語の授業を担当し、「サザエさん」などの日常的な生活が舞台のアニメ番組を教材にしてみました。そうめんが話題になったとき、「何だ！何なんだあるのか。おかしん！」など、意外な意見に出くわすこともたびたびでした(そうめんはあとでみんな食べて食べました)。

1月から3月の冬学期は、現代日本文化、日本近代史、日本語の個人研究の授業を行いました。受講学生も多く、いずれも英語による授業でした。日本近代史の授業は、一年生交換教授で本学に来ておられたジェームズ・タック先生のゲスト・インストラクターとして共同で行いました。授業は大変でしたが、自分身大いに勉強になりましたし、なによりも、熱心に授業に耳を傾け、積極的に発言してくれていたCWUの学生にはほんとうに有難い思いがしました。

今回の交換教授に際しては、国際交流課、外国語学科、ESLをはじめとしてCWUのスタッフの方々、授業に出てくれた学生、そしてエレンスバーグで出会った人々、ここでお名前を挙げられないのは大変残念ですが、みなさんには日々お世話になっていました。みなさんの笑顔は忘れられることができません。これも20年近くわたって本学が築いてきた国際交流のおかげだと思っています。

最後になりましたが、貴重な経験の機会を与えてくださった創立母大松江キャンパスの教職員の皆様には心より感謝しております。ありがとうございました。



アドミッション関係事業

アドミッション関係の事業の1つに、県内外で開催される進路相談会に出かけて本学の説明を行うことがあり、毎年数回の進路相談会に参加しています。平成20年12月2日(火)には松江テルガ1階を会場として、業者主催の進路相談会が開催され、保育学科の担当講師が松江キャンパスの担当者と説明に出向きました。本学コーナーには、松江市内の高校生計17名の来場者がありました。松江キャンパスの3学科の特徴や、それぞれの学科で取得できる資格、学生生活、入試方法などについての説明を行いました。本学コーナーを訪れた高校生は、知りたかったことは知ることができた、という感想を順次会場を後にしたようでした。

また、毎年県内の高校からの要請に応じて出張講義にも出かけています。平成20年度は、11月12日(水)午後、島根県立三刀屋高等学校で竹森准教授による講義が、「英語で知る世界」というテーマで行われました。「英語の高校版、観音(声)語などの日常的な表現、慣用的な比喩表現を題材にして、日本語と英語の違いを知る。さらに、応用として、それらの表現が用いられた物語を読み、物語のユーモアを味わう」という内容で、「言葉から文化の違いを感じることができた」といった感想が寄せられています。

ADMISSION



総合文化学科
妖怪学

総合文化学科 基本授業
小泉 凡

「何？それ？」と思われるかもしれませんが、「妖怪学」という言葉を最初に使ったのは江戸上り了という明治時代の仏教哲学者ですが、それは妖怪からの離脱をめざす妖怪断絶を目的とする妖怪学でした。

2008年10月に開講した本学の「妖怪学」は、日本の民俗的世界で今日まで伝承されてきた妖怪、また日本の歴史・文学のなかで書き留められた、「物の(の)怪」「源氏」「鬼」、さらにITやキョウブを軸にした「イナ」「ス文学や西洋の民間伝承における吸血鬼妖怪に光を当て、人間と異界との交渉の歴史を探究することを目的としています。民俗学・国文学・英文学を専門とする3人の教員が担当しています。さらに、現代社会において観光や経済問題、ときにセブピーとも結びついて注目される「妖怪」、過去の妖怪断絶を手懐けたい、その能力に目まらうという趣旨もあります。

11月29日には102名の受講生全員で環境の水木しげる記念館を見学し、「妖怪の町、横濱」をテーマに教員さんのお話もうかがいました。年間140万人が妖怪を体験しにくる町！あらためて「妖怪って何だろう？」と考えさせられました。



海外語学研修に参加して

総合文化学科 2年 稲角 静

夏休みの約3週間を利用して、アメリカのインディアン州エレンズバーグにあるセントラル・フロンティアン大学(CFU)で海外語学研修に参加しました。日本から飛び出し、異なるものを会えるもの全てに刺激を受け、毎に興奮状態でした。

アメリカに滞在してまだ間もない頃は、みんな自分の英語を少し恥ずかしそうに話していました。しかし時間が経つにつれ、授業中や昼後の会話の中で、間違っただけでもいらいから積極的に英語を話そうという姿勢が変わってしまいました。2泊3日のホームステイの時も各自積極的に行動して、ホストファミリーの方と一緒に楽しむことができました。

アメリカで過ごした日々は、毎日が充実していて、とても楽しいものとなりました。私は最初、この研修に参加することに不安がわきましたが、実際アメリカに行き、思いっきり行動して自分の価値観を広げることができました。人生の中でこのような時間を過ごせたことは、本当に良い経験となりました。



CAMPUS
TOPICS

トピックス・・・
キャンパス内外で起こったニュースをお伝えします!!

学 園 祭

学生総務課 加藤 星奈

こんにちは。今年(2008年)度の学友会長を務めさせていただきます加藤星奈です。

今年行われた第48回学園祭では、ROCK近5で人気沸騰中の五十嵐準人さんを招きトークショーを行いました。また、恒例の模擬店・ビンゴゲームをはじめ、初のイベントである「男闘女闘コンテスト」や「学内にひそんだ学友会員を見つけ出す!」という企画も行われ、見物客を盛り上げました。健康栄養学科の新しい物の「健康チェック」のような、夜生活や運動量などから健康について調べるコーナーでは、目録の研究



授業なども披露されました。後夜祭ではライブも行いました。毎年大盛り上げの学園祭です。来年も是非来ていただけたら光栄に思います。よろしくお願ひいたします。

きれいになった3号館



2008年の夏に本学の3号館のお色直し(外壁の補修と塗り直し)が行われました。実際に30年余り経つ校舎です。夏の間、ラッピングされていた3号館は、右上の写真のように生まれ変わりました。

キャンパス全体のバランスを考え、暖かさを意識とし、明るめの色が選ばれました。しかし、さっかくのお色直しなので、アクセントを付けようとのことから、建物の裏である玄関に、本学のシンボルマーク(図1)から一色、黄色を選んで、窓枠などに使用されているグレーを背景に一本線を入れました。いかがでしょうか?



図1



競技かるたを続けていて

総合文化学科 2年 石川 亜希子

「第6回神楽の国 出雲 大社全国かるた競技大会」の口頭優勝をいたしました。

私が競技かるたを始めたのは小学校1年の時です。はじめは興味本位でしたが、かるたをするうちに、その魅力にとりつかれました。競技かるたの魅力は、真実勝負の中でいかに札を早く取るかということです。



全国大会では、松山や富岡などにも赴きました。松山大会では口頭優勝、今回の出雲大社大会では口頭優勝。現在は完敗をいただき、A級(四段以上)取得を目標に練習に励んでいます。

かるたをする上で心がけていることは、最後まで諦めないこと、感謝の気持ちを忘れなことです。かるたは最後の一枚まで何が起こるか分かりません。どのような状況でも全力を尽くすことを心がけています。また、かるたは相手選手や観手、大会運営など多くの方々のおかげで成り立っています。

私は、感謝の気持ちを忘れず、かるたができる喜びを味わいながら今後も続けていきたいと思っています。

ヤマトイモ料理コンクール 最優秀賞

健康栄養学科 2年 藤津 愛実

おいしいものは、ヤマトイモ料理コンクールへ出展の依頼が来た時は、食べられると思って内申していた。

試作のため湯の半分をヤマトイモと煮込んで、もう半分も煮たくないような糖糖粉のような時期もあった。そんな中でできたのが「南無阿弥陀仏たまごおひろひ」。ヤマトイモに多く入っているとされるターアミラーゼという酵素が、ヤマトイモと別のゲンデンプンを分解してまじり合うのではない、という仮説の裏に当たった。このたまごおひろひさんが優勝賞品に授け、11月30日南無町でライブ!んたちのおいしい!料理と共に出展。今、研究室には最優秀賞の賞状と賞品が並んでいる。今後、仮説の検証を行う予定である。



SCHEDULE

※2009年度入学予定者

※入学定数の変更の可能性もありますので事前に確認ください。



CLUBS & CIRCLES



クラブ＆サークル

自分らしさを表現できる、多彩なジャンルのクラブ・サークルの一部をピックアップ!

クッキング研究会

専攻 経済学部 2年 藤 ひとみ

クッキング研究会は毎年卒から始まるまで幅広くある、とても楽しくて楽しいサークルです。メンバーは約20名で月2回活動しています。

毎年学園祭では、チャーシューがたっぷり入った餃子ーシーな手作り肉まんを販売しており大好評です。また今年は初めてカスタードまんにも挑戦しました。カスタードは凄まじく苦みにくいので失敗しましたが、手作りの愛の裏さが伝わり立て、ふわふわとした食感が人気でした。肉まんは何となくとも苦みのが難しく、苦み方が強いと歯に皮が刺さってしまうので、事前に2回練習をして本番に臨みます。練習をしているうちに1年生も上達し、失敗がなくなりました。

ここまでは練習でしたが、今年は開催が延期されました。近年、食の安全性が問題になっており加工品の原材料にも注意されるようになってきています。肉まんの材料であるしんじけや竹の子は国産と中国産では値段にかなりの差があり、国産のものを使用したため材料費が多くなってしまいました。肉まんの仕上げに蒸み切ることも考えましたが、毎年楽しみにしてくださる方がおられることや、ワンコインの手軽さを考慮して、値段はそのままで蒸くことにしました。



学園祭当日は1日中肉まんを作りっぱなしで大変でしたが、自分達が作ったものが買われてどんどん売れていく様子を見ることができ、また1年生と2年生の交流も深まってとても楽しかったものに思いました。

マラソン同好会

専攻 経済学部 2年 富田 朋子

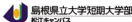


2008年12月7日、NAHAマラソン(沖縄)に参加してきました。

私はNAHAMマラソンに参加することが決まってから42.195kmに挑戦できるとあって、とても楽しみにしていました。同好会のメンバーと学科が違うため一緒に練習することが困難でしたが、休みの日などに予定を合わせて練習をしました。沖縄と一緒に走ると思いが伝わり、わいわいと色んなことを聞いたりして、そんな楽しみ練習を通して体力をつけ、フルマラソンに挑戦することができました。

本番当日の朝、沖縄ならではの色々な習俗の中で、約3万人の参加者と一緒にスタートしました。走っている途中では、お通りの横断して下さる方たちとハイタッチをしたり、時には他のランナーの方たちと言葉を交わしたり、それになんとも思っても景色が最高でした。ラスト5kmからは自分との戦いでしたが、無事に完走することができ、とても楽しく達成感もある42.195kmになりました。

2009年度は、総合入生として2年秋、松江キャンパスでの卒業生がいます。入学として最初の年となりました。そんな中、キャンパス内にはニュースが豊富です。実際にその一冊が取り上げることができずんだけれど、学内の雰囲気を知ることができ、おもしろいと感じました。方々には、感謝申し上げます。また、質問に答覆しましたが、記事や写真を提供してくださった方々や協力くださった方々にも改めて感謝申し上げます。(K.A.M.T.)



島根県立大学短期大学部
松江キャンパス

〒690-0044 島根県松江西浜7-7-7 1024番2号
TEL 0852-26-5525 FAX 0852-21-8150
●発行：島根県立大学短期大学部松江キャンパス
メディア・広報委員会
●発行日：2009年3月21日

島根県立大学短期大学部 松江キャンパス
経済学・社会学部経済学系